

# 第118回 仏教公開講座

年間テーマ

## 生きるって ということ

サブテーマ (教区御遠忌テーマ)

まなこ                      こころ  
『眼をひらく      心をひらく』

真宗大谷派岐阜教区・岐阜別院

日 時	2014年4月20日(日) 午後6時30分～8時30分	
講 師	祖父江 佳乃 氏 (名古屋教区有隣寺住職)	
講 題	『今を生きる 節談説教 親鸞聖人御一代記より 一念仏停止の法難』	
日 程	午後6時30分	真宗宗歌・正信偈 (同朋奉讃式)
	6時45分	講 義
	8時15分	質問の時間
	8時30分	恩徳讃・閉会



### 講師紹介

祖父江 佳乃 (そぶえ よしの)

昭和42年生まれ。生まれた時から、祖父、祖父江省念の説教を聞いて育つ。愛知淑徳大学文学部国文学科卒業。ラジオ局アナウンサーを2年経験後、同朋大学仏教専修学科卒業。省念没後、悲しみのあまり説教から足を遠ざけていたが、2007年築地本願寺で行われた「節談説教大会」で多くの説教師と出会ったことにより祖父と同じ道を歩むことを決意。平成20年父の急逝後3年間の有隣寺代務住職を経て、平成23年より有隣寺住職を務める。東海ラジオ制作「甦る話芸～節談説教」が、平成24年度文化庁芸術祭でラジオ部門大賞・日本放送文化基金賞ラジオ番組本賞などを受賞。

※「節談説教(ふしだんせつきょう)」とは、ことばに節(抑揚)をつけ、洗練された声とゼスチャーで演技的表出をとりながら聴衆の感覚に訴える詩的、劇的な「情念」の説教だといわれています。特に「聞法」を大切にする浄土真宗で高度な話芸として発展し、すぐれた説教者を輩出してきました。戦後、「節談説教」は時代遅れとの風潮が広まり、説教は「法話」と呼ばれ、「高座」もテーブルと椅子に替わられていきました。しかし、愛知県の祖父江省念師は「節談説教」一筋に打ち込み、師の説教はいつも満堂の賑わいでした。俳優の小沢昭一氏や永六輔氏らも感銘をうけ、その魅力を伝えたため、昭和40年代「節談説教ブーム」がおきたほどです。

いつでも・どこからでも聞ける「テレホン法話」、お電話ください。Tel.058-265-0033